

令和6年度
学生の意識啓発に関する調査研究事業 報告書

■講座実施日／令和6年7月4日（木）

■対象／佐賀女子短期大学 1年生

■参加人数／128名（女性118名、男性8名、その他2名）

■アンケート実施期間／事前アンケート：6月27日（木）～7月4日（木）
事後アンケート：7月5日（金）～7月12日（金）

■回答数／

事前アンケート：99件（対象人数：150名 回答率：66.0%）

事後アンケート：95件（対象人数：150名 回答率：63.3%）

■有効回答数／74件（女性回答：74件、男性回答：0件、その他回答：0件）
（対象人数：150名 有効回答率：49.3%）

はじめに

アバンセでは、毎年、佐賀県内の各大学・短期大学と共催で「学生への意識啓発事業」を実施しています。

この事業では、大学、短期大学の学生の皆さんに、性別にとらわれずに自分らしく生きていくという学びを通じて、男女共同参画の意識を高めていただくために、キャリアデザインやワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした講座を行っています。

また、講座の前後にアンケート調査を実施し、「学生の意識啓発に関する調査研究事業」として、講座に参加する前と後での学生の意識の変化に関する調査研究を実施しています。

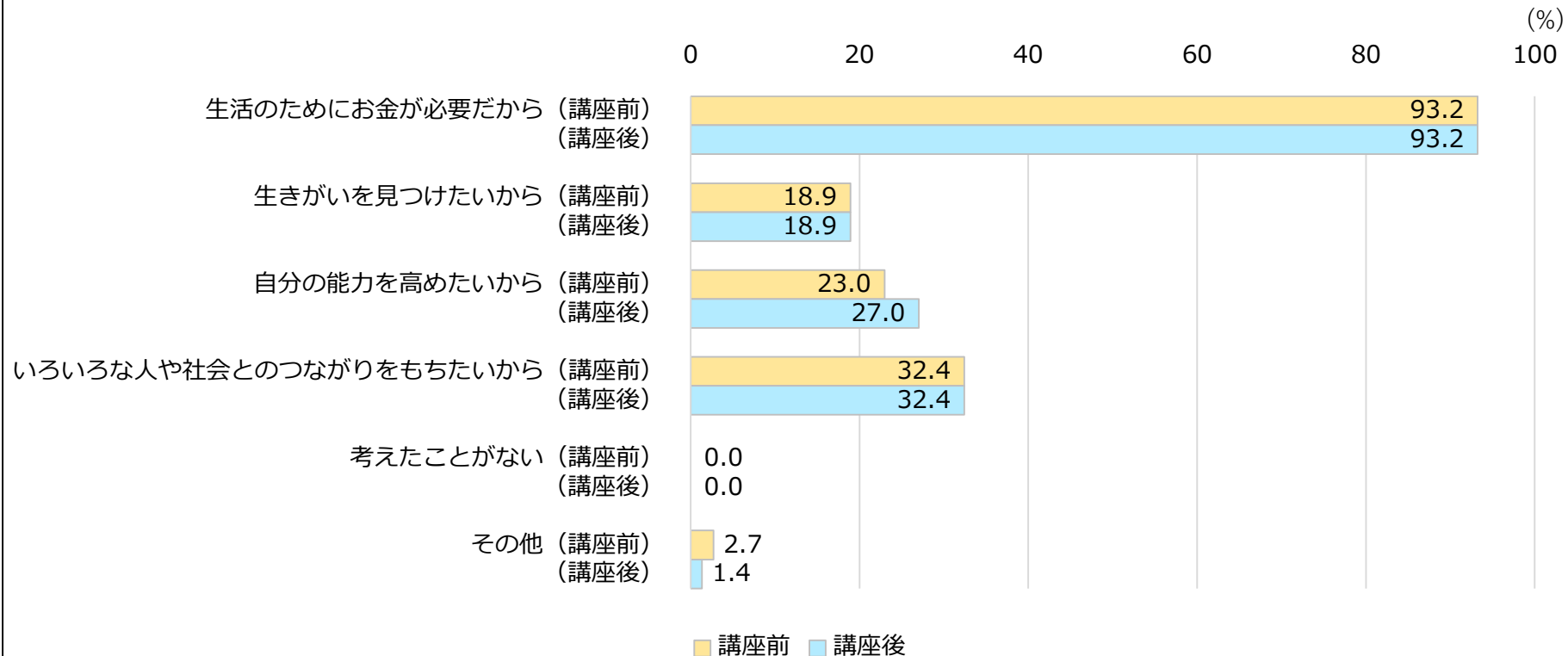
今年度は佐賀女子短期大学と共催し、1年生を対象に、「男性保育士からのメッセージ～社会の中にある男女共同参画を考える～」のテーマで講義を実施しました。

講師は、兵庫県西宮市初の男性保育士として施設・保育所に勤務され、現在は大阪教育大学教育学部教授で保育学が専門の小崎 恭弘（こざき やすひろ）さんにオンラインで講演いただきました。

講義では、講師の保育士としての経験を導入に性別役割分業について学び、職業選択や家庭内での性別による役割分担について考えました。さらに、これからの人生をどう生きていくのかというライフデザインについて触れ、価値観が多様化している中、性別にとらわれて価値判断や意思決定をするのではなく、多様な生き方や選択ができる新しいモデルに自らなっていたきたいとお話をしていただきました。

講座の前後のアンケートを通して、佐賀女子短期大学の1年生が、「働く」ことについてどのように考えているのか、働く目的や働く際の地域選択、女性の働き方等についての意識の変化をまとめましたので報告します。

問1 働く目的について、どのように考えるか。（複数回答可）



問1「その他」の回答

【講座前アンケート】

- ・誰かを助けるため
- ・まわりがそうしているから働かないと駄目な雰囲気

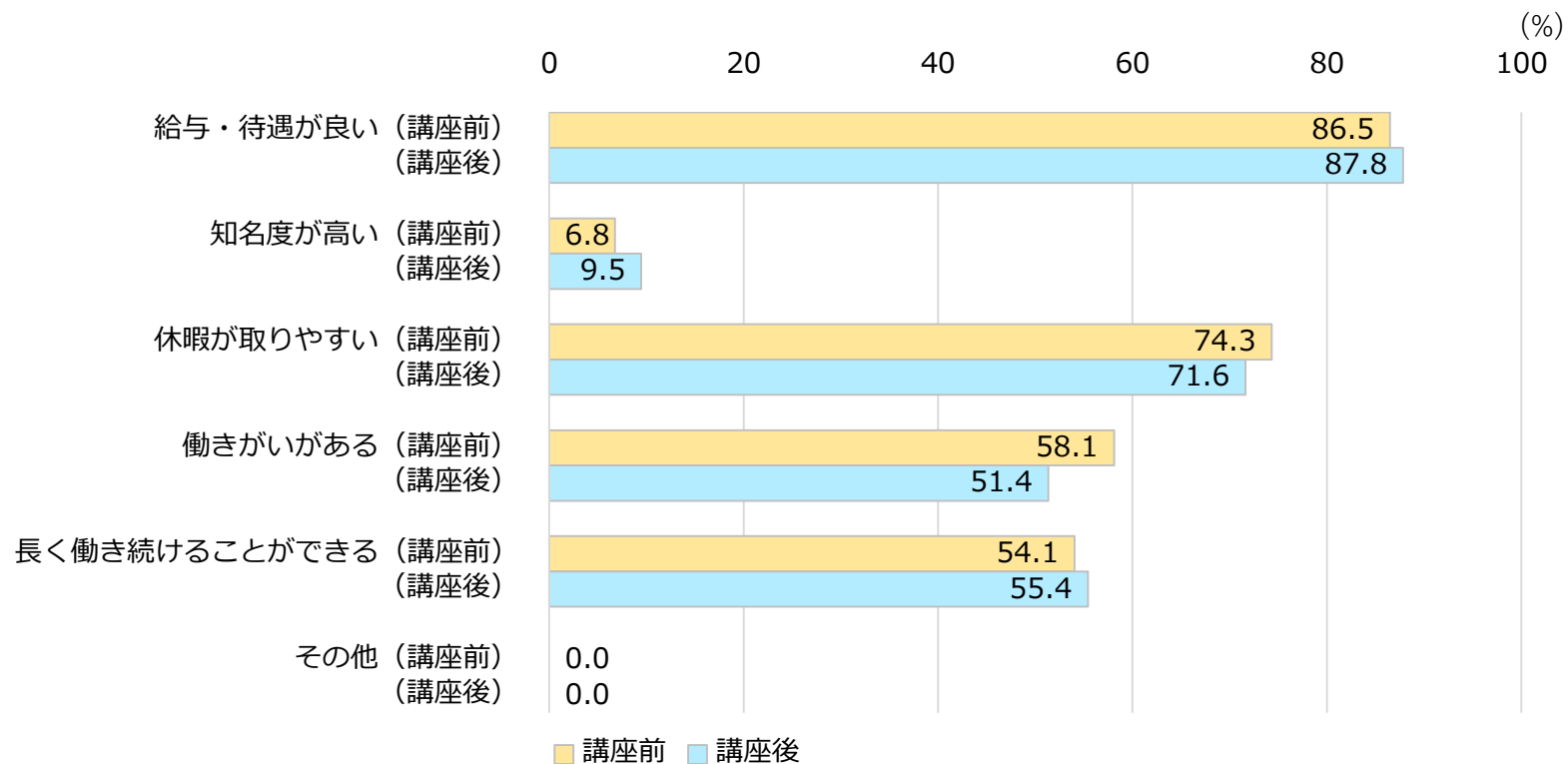
【講座後アンケート】

- ・趣味のため

〔傾向〕

「働く目的について、どのように考えるか」の回答では、講座の前後ともに「生活のためにお金が必要だから」が最も多い。講座後の変化としては、「自分の能力を高めたいから」が4.0%増加し、他はほとんど変化が見られなかった。

問2 就職先を選ぶ基準として、何を重視するか。（複数回答可）



問2「その他」の回答

・回答者なし

〔傾向〕

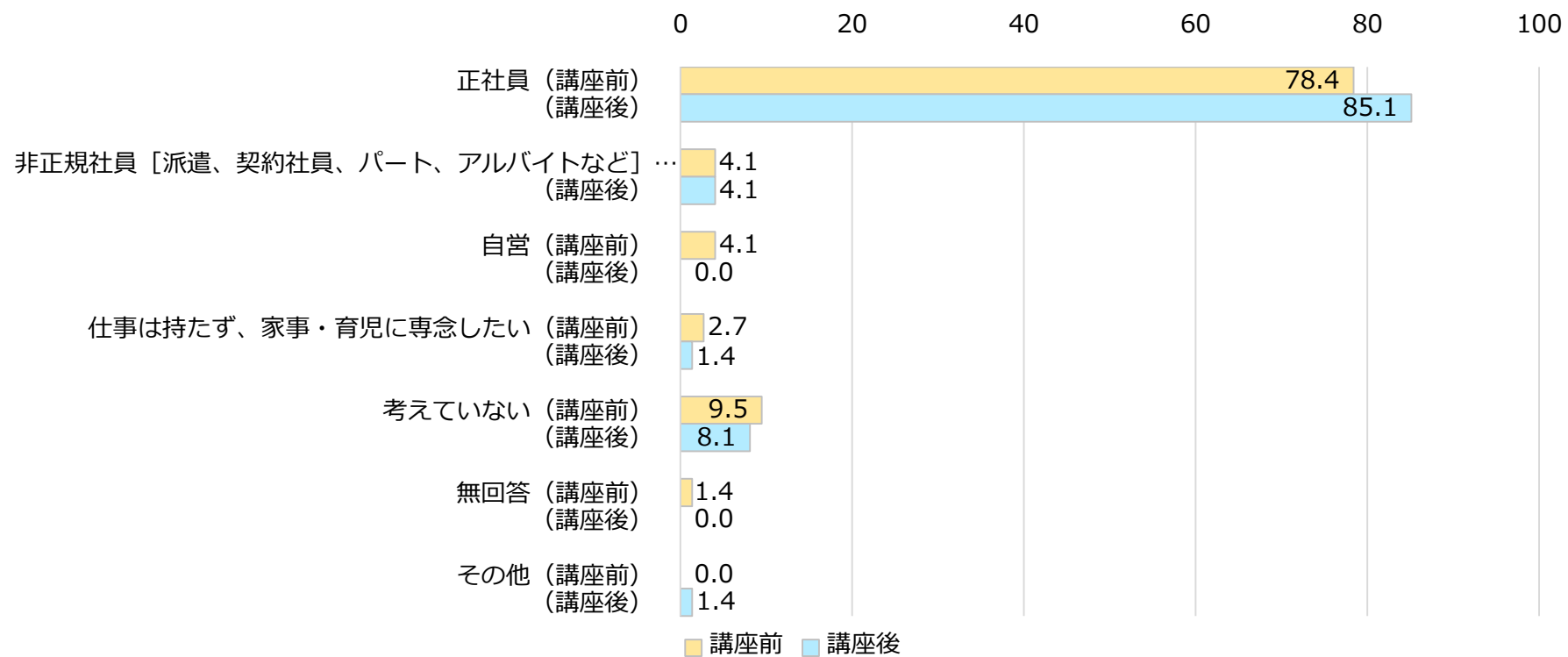
「就職先を選ぶ基準として、何を重視するか」の回答では、講座の前後を通して「給与・待遇が良い」が最も多い。また、講座前では「休暇が取りやすい」「働きがいがある」の順に続いている。

講座後の変化としては、「休暇が取りやすい」が2.7%、「働きがいがある」が6.7%減少している。

問3 働くときには、どのような形態を選ぶか。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)

(%)



問3「その他」の回答

【講座前アンケート】

・回答者なし

【講座後アンケート】

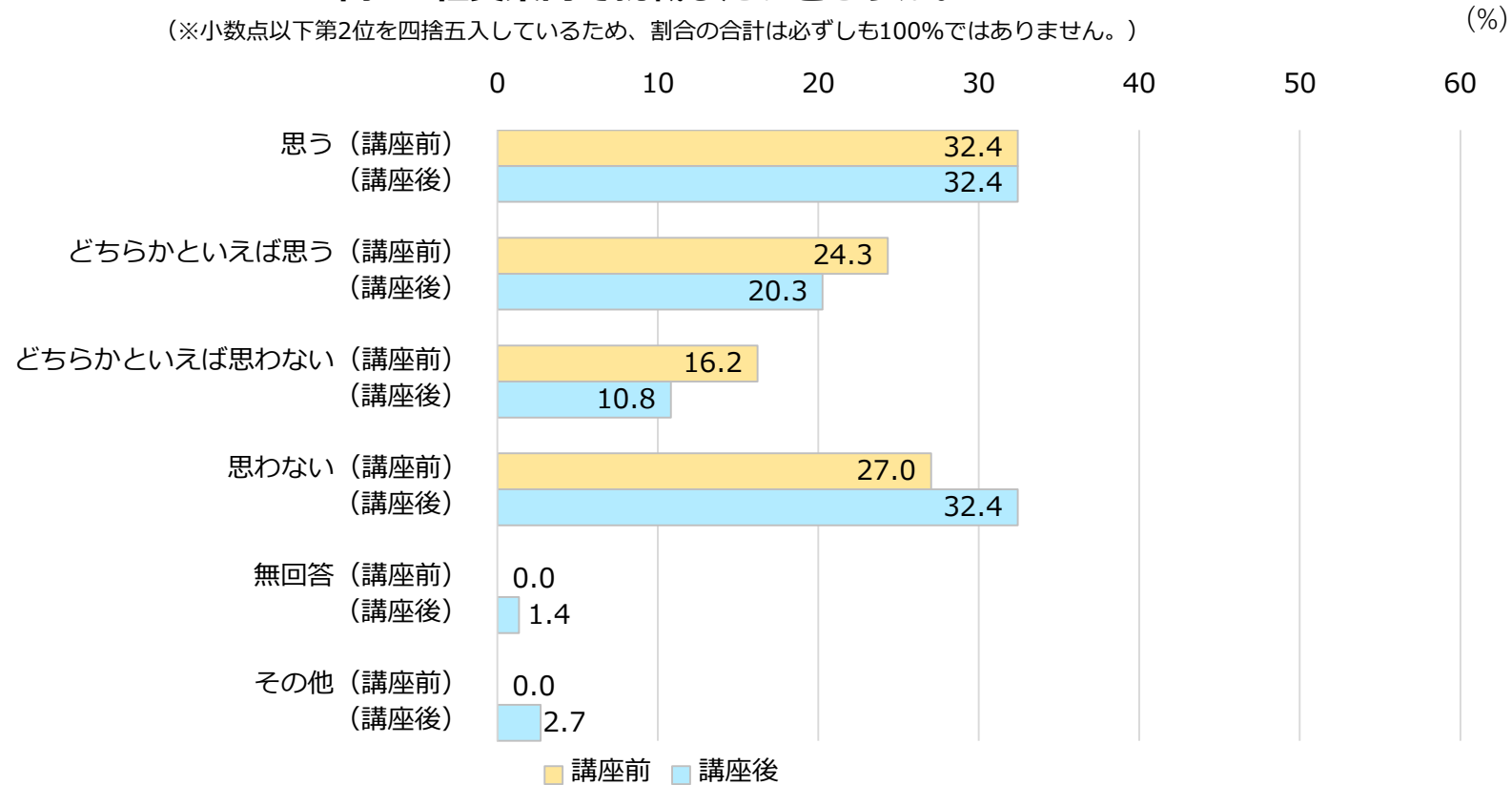
・介護福祉士

〔傾向〕

「働くときには、どのような形態を選ぶか」の回答では、講座の前後を通して「正社員」が最も多い。
講座後では、「正社員」が6.7%増加している。

問4 佐賀県内で就職したいと思うか。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)



問4「その他」の回答

【講座前アンケート】

・回答者なし

【講座後アンケート】

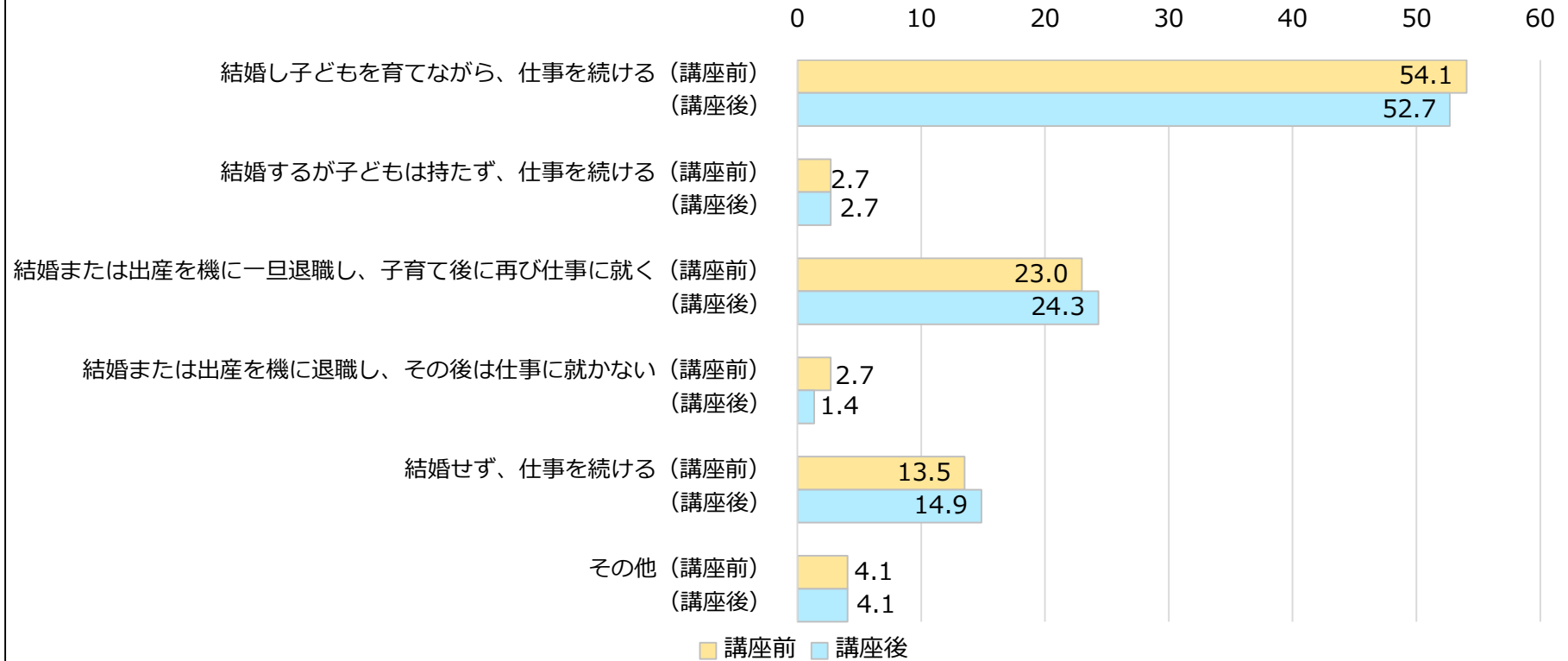
・迷っている

〔傾向〕

「佐賀県内で就職したいと思うか」の回答では、講座前は「思う」が最も多い。
講座後は「思わない」が5.4%増加し、「思う」と同じ割合で最も高くなっている。

問5 女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)



問5「その他」の回答

【講座前アンケート】

- ・想像がつかない
- ・その時にあった働き方をする

【講座後アンケート】

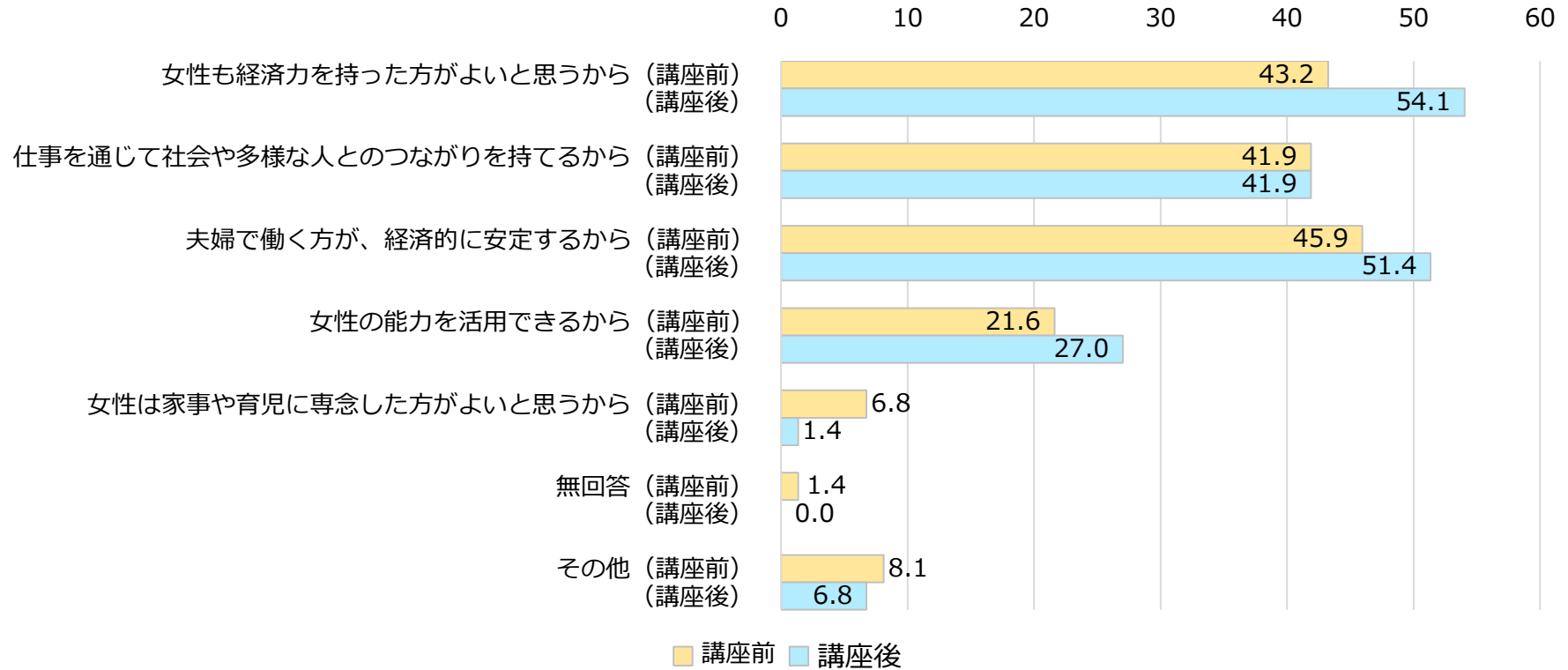
- ・その人が好きなように働く
- ・結婚する機会があるまで仕事を頑張る

〔傾向〕

「女性の働き方について、次のどの考えに最も近いか」の回答では、講座の前後を通して「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」が最も多い。

講座の前後で目立った変化は見られなかった。

問6 女性の働き方について、問5のように考えるのはなぜか。（複数回答可）



問6「その他」の回答

【講座前アンケート】

- ・考えたことがない
- ・お金を稼ぎたいから
- ・家庭につきたいと思っているから
- ・将来どうなるか分からないから
- ・自分の力で生きていきたいから

【講座後アンケート】

- ・なんとなく
- ・家庭に入りたいから
- ・結婚するかしないかわからないから
- ・自分でお金を稼ぎたいから
- ・個人の自由だから

〔傾向〕

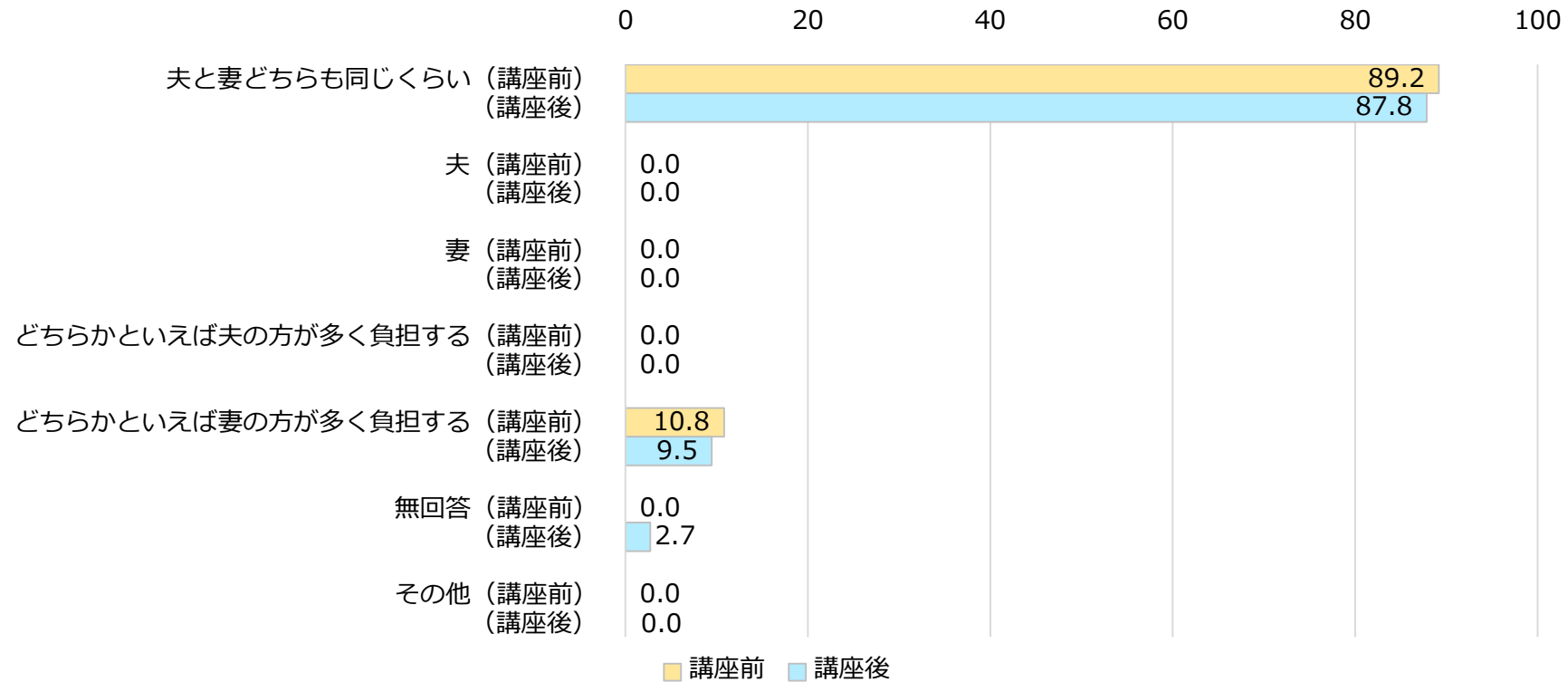
「女性の働き方について、問5のように考えるのはなぜか」の回答では、講座前は「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」が最も多く、次いで「女性も経済力を持った方がよいと思うから」、「仕事を通じて社会や多様な人とのつながりを持てるから」が多い。

講座後では「女性は家事や育児に専念した方がよいと思うから」が5.4%減少している。また、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」が10.9%、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」が5.5%「女性の能力を活用できるから」が5.4%増加している。

問7 結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)

(%)



問7「その他」の回答

・回答者なし

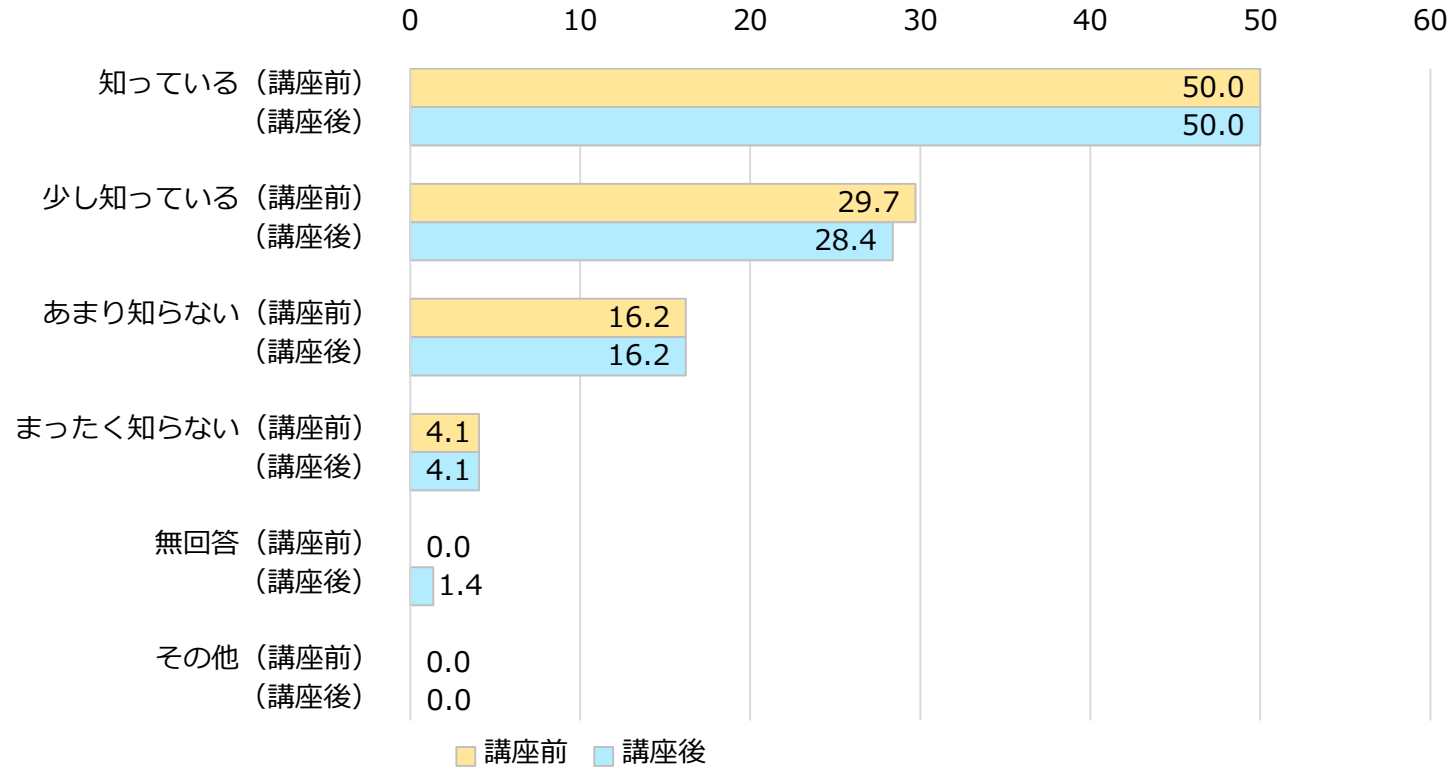
〔傾向〕

「結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か」の回答では、講座の前後を通して「夫と妻どちらも同じくらい」が最も多い。講座の前後で目立った変化は見られなかった。

問8 「ワーク・ライフ・バランス」について知っているか。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)

(%)



問8「その他」の回答

・回答者なし

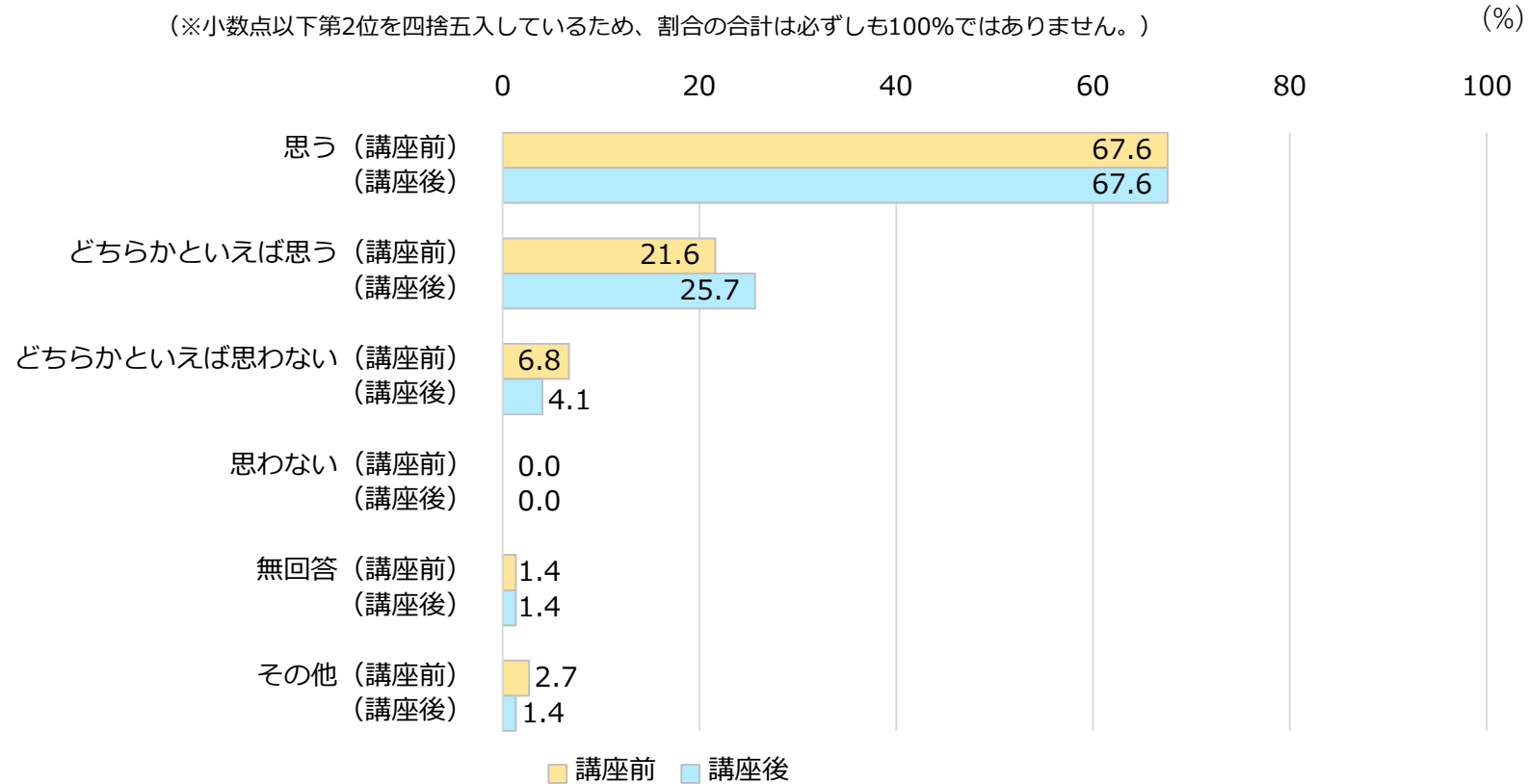
〔傾向〕

「『ワーク・ライフ・バランス』について知っているか」の回答では、講座の前後を通して「知っている」が最も多く、次いで「少し知っている」が多い。

講座の前後で目立った変化は見られなかった。

問9 政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方が良いと思うか。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)



問9「その他」の回答

【講座前アンケート】

- ・分からない
- ・どちらでもいい

【講座後アンケート】

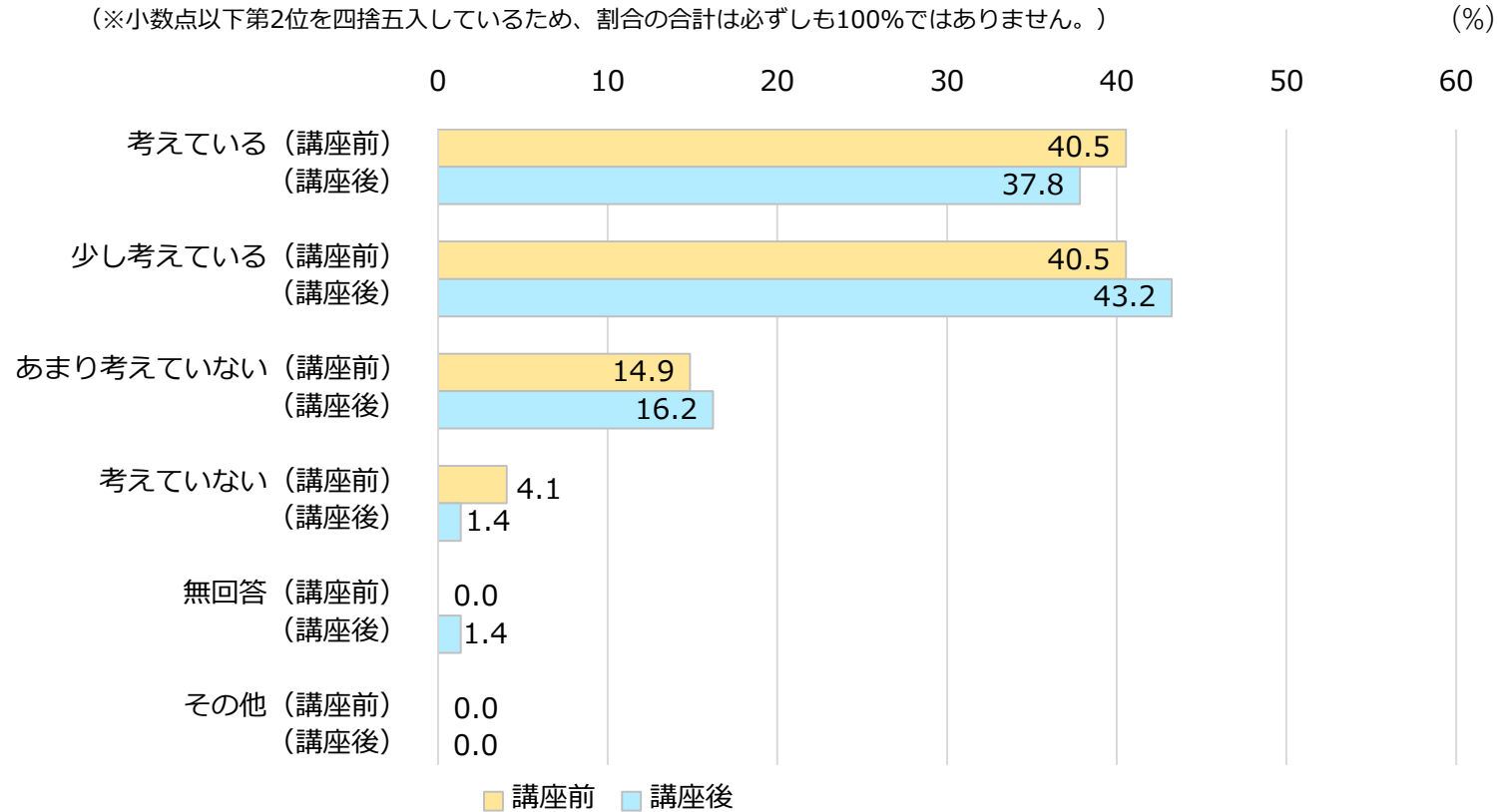
- ・男女関係なく能力に見合った役職に着いたらいいと思う

〔傾向〕

「政治や行政、企業他あらゆる分野の役職に今後女性が増えた方が良いと思うか」の回答では、講座の前後を通して「思う」が最も多い。講座後の変化としては、「どちらかといえば思う」が4.1%増加し、「どちらかといえば思わない」が2.7%減少している。

問10 将来に向けて、今何をすべきか考えているか。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)



問10「その他」の回答

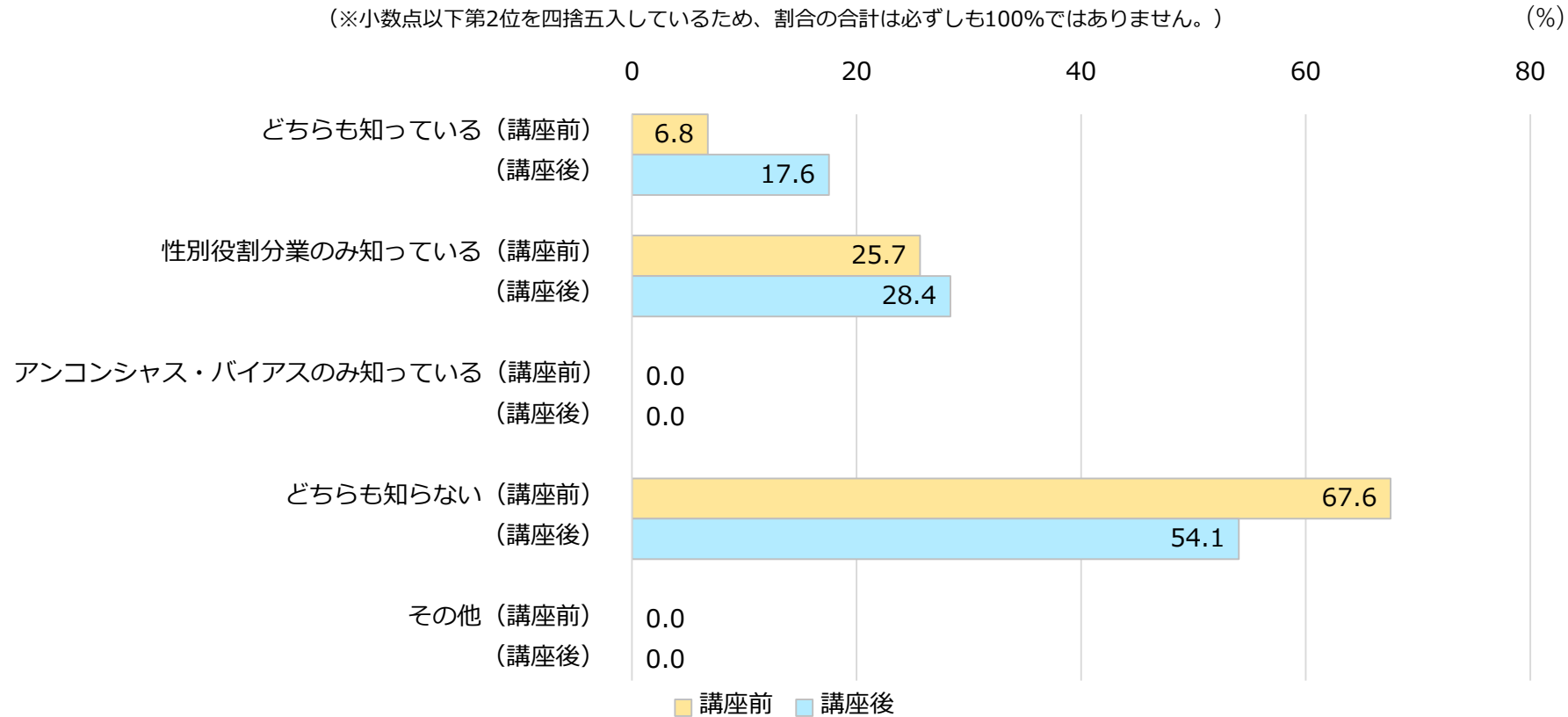
・回答者なし

〔傾向〕

「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の回答では、講座前は「考えている」と「少し考えている」が同じ割合が多い。講座後は「少し考えている」が2.7%増加し、最も多くなっている。

問11 「性別役割分業」や「アンコンシャス・バイアス」について知っているか。

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計は必ずしも100%ではありません。)



問11「その他」の回答

・回答者なし

〔傾向〕

「『性別役割分業』や『アンコンシャス・バイアス』について知っているか」の回答では、講座の前後を通して「どちらも知らない」が最も多い。

講座後の変化としては、「どちらも知らない」が13.5%減少し、「どちらも知っている」が10.8%増加している。

まとめ

今回、「学生への意識啓発事業」の講座の前後に実施したアンケートの結果から、佐賀女子短期大学1年生の意識変化について、以下のとおり推察しました。

○働く目的について

問1「働く目的について、どのように考えるか」の問いでは、講座の前後ともに「生活のためにお金が必要だから」と答えた割合が最も高くなっています。これまでの調査と同じく、多くの学生が生計を立てるために働くという考えを持っていると考えられます。また、連日、円安や物価高騰を報じられていることや、“人生100年時代”と言われるようになったことが背景にあるのではないかと考えます。

○就職先を選ぶ基準について

問2「就職先を選ぶ基準」の問いでは、講座の前後ともに給与や待遇面が最も重視されている結果となっています。講座後にも大きな変化はありませんでした。これは学生が就職先を選ぶ基準について考えることに、今回の講座の影響はほとんどなかったと考えられます。

○働くときの形態について

問3「働くときは、どのような形態を選ぶか」の問いでは、講座の前後ともに約8割が「正社員」と回答しており、大半の学生が安定した雇用形態を望んでいることがわかります。回答にはほとんど変化がなく、働くときの形態を考えることに、今回の講座の影響はほとんどなかったと考えられます。

○佐賀県内で就職することについて

問4「佐賀県内で就職したいと思うか」の問いでは、講座の前後とも「思う」「どちらかといえば思う」の県内志向の割合が5割以上と高くなっています。

しかし、講座後の内訳を見てみると、「どちらかといえば思う」と「どちらかといえば思わない」の割合が減り、「思わない」の割合が増えています。これは講座の中で、多様な生き方や価値観についての話を受け、自身の就職について働く“場所”にとらわれない考えに、意識が変化したのではないかと考えます。

- ・ 県内志向の割合 (講座前) 56.7% (講座後) 52.7% ※「思う」「どちらかといえば思う」の合計
- ・ 県外志向の割合 (講座前) 43.2% (講座後) 43.2% ※「思わない」「どちらかといえば思わない」の合計

○女性の働き方に対する考え

問5「女性の働き方について、どの考えに最も近いか」の問いでは、講座の前後とも「結婚し子どもを育てながら、仕事を続ける」の回答が5割を超え最も高くなっています。講座後にも大きな変化はありませんでした。これは講座の中で話があった“現在のスタンダードモデルになっているのは共働き世帯”、“共に働き、共に育てる”と学生の考えが近いことがうかがえます。

○女性の働き方に対する考え及びその理由について

問6「女性の働き方について、問5のように考えるのはなぜか」の問いでは、講座前は「女性も経済力を持った方がよいと思うから」「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」が多い回答でした。これは問1の働く目的の回答と同じで、経済面での安定を優先して考えていることがわかります。

講座後では、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」が10.9%、「女性の能力を活用できるから」が5.4%増加しています。また、「女性は家事や育児に専念したほうがよいと思うから」が5.4%減少しています。これは講座の中で、性差にとられない職業選択の重要性について触れたことで、経済の視点に加え、女性のライフデザインについて考えることで、別の視点が増えたものと推察します。

○結婚後の家事分担について

問7「結婚したら家事や育児は誰が担うのが理想か」の問いでは、講座の前後とも「夫と妻どちらも同じくらい」の回答が最も高くなっています。講座後でも回答に大きな変化はありませんでした。講座内で男性の家庭参画や育児についての話があり、学生の考えが講師の話と近いものだったことが汲み取れます。

○「ワーク・ライフ・バランス」の認知度について

問8「『ワーク・ライフ・バランス』について知っているか」の問いでは、講座前で約8割が「知っている」「少し知っている」と回答し、高い水準でした。講座後にも大きな変化はありませんでした。講座の中で「ワーク・ライフ・バランス」という単語が直接的に使用されなかったため、講座による学生の意識に大きな変化はないと考えられます。

- ・肯定的な回答 (講座前) 79.7% (講座後) 78.4% ※「知っている」「少し知っている」の合計
- ・否定的な回答 (講座前) 20.3% (講座後) 20.3% ※「知らない」「あまりよく知らない」の合計

○役職への女性の登用について

問9「あらゆる役職に今後女性が増えた方がよいと思うか」の問いでは、講座前で約9割が「思う」「どちらかといえば思う」と回答し、高い水準でした。講座後は「どちらかといえば思わない」が減り、否定的な回答が全体の約4%に減りました。学生は女性が役職に登用されることを望んでいることがうかがえます。また、講座の中での、「性差によって職業選択の幅を狭めることは将来の可能性を狭める」との話をうけ、学生が女性の役職への登用をより肯定的に感じたのではないかと考えます。

○将来に向けての準備について

問10「将来に向けて、今何をすべきか考えているか」の問いでは、講座の前後をとおして「考えている」「少し考えている」の回答が約8割となっています。参加学生の多くが来年就活を迎えるため、将来について考えている学生が多いことがうかがえます。

講座後の微量な変化は、講座内ではライフデザインについて触れ、多くの学生の理想が親モデル（40年前の生き方）であるとの指摘があり、自分らしい生き方の自分モデルを考えてほしいとの講師の話があり、これを受け学生が自身について振り返ったものではないかと考えます。

○「性別役割分業」と「アンコンシャス・バイアス」の認知度について

問11「『性別役割分業』や『アンコンシャス・バイアス』について知っているか」の問いでは、講座前は7割近くが「どちらも知らない」と回答していました。講座後は「どちらも知っている」「性別役割分業のみ知っている」の回答が増え、「どちらも知らない」の回答が減っています。これは講座内でどちらも触れて話があり、学生が学びを得たことがうかがえます。その中でも、性別役割分業については講師の経験談を交えて話があったため、より学生の意識に残ったのではないかと考えます。

今回の講座は、男性保育士としての講師の経験を導入に、職業ごとの性別イメージや性差にとらわれない職業選択について考え、社会の中の男女共同参画や多様性について学ぶ内容となりました。

参加学生は保育や福祉を学んでおり、今後ヒューマンケアに携わることが想定される中で、今回の講座は、学生がこの先の自分自身の人生をどのように考え、働き、生きていくかを考える機会となったのではないかと考えます。